

1. 事業の位置付け

事務事業名	ノンステップバス推進事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等	公共交通移動円滑化設備整備費補助金交付要綱		
対象・受益者	バス利用者	事業期間	2008 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
誰もがバスに楽に乗り降りでき、平塚駅や周辺の目的地への移動の利便性・安全性が向上し、自立した日常生活を送っています。		バスを利用した移動の利便性や安全性の向上を図るため、ノンステップバスの協調補助制度を導入し、市内を運行するバス車両のバリアフリー化を推進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	ノンステップバス導入台数			単位	台
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	-	5	5		
	実績		5	4		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	ノンステップバス導入率			単位	%
	説明・算定式	平成28年度にバス全体の30%をノンステップバスとした場合の導入率				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	-	3	6		
	実績		3	5.5		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	誰もがいつでもどこへでも気軽に移動できるモビリティ整備を望む声は多く、国の補助制度と連携し、ノンステップバスの導入を促進する必要があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	誰もがバスに楽に乗り降りでき、バスを利用した移動の利便性や安全性の向上を図り、誰もが快適に暮らせるまちを目指すためには有効な事業です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	国が定める基本方針ではバス車両に関し、平成27年までに低床化されたバスに切り替えることとし、さらにそのうちの20%から30%をノンステップバスとすることを目標としているため妥当性があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	バス事業者に対する国との協調補助を活用し、効率的な導入を図っています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		—	ノンステップバス導入の支援	ノンステップバス導入の支援
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	5,766	7,600
事業費 (A)		0	5,766	7,600
執行率 (%)		0.00	57.66	76.00
内訳	職員 (人)	0.00	0.25	0.15
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	2,098	1,254
フルコスト (A+B)		0	7,864	8,854

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	—	①: 予定どおり	②: 若干遅れている
		—	—	平成21年度は、国との協調補助の調整率が満額であったため予算の範囲での執行となった。
主な取組と成果		—	国との協調補助により予定の5台が導入できました。	国との協調補助により、ノンステップバス4台の導入に対し補助いたしました。
検証結果		—	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		近年、国の予算配分より全国の申請額が上回っており、今後計画的な導入が図られるかが、課題となる。	近年、国の予算配分より全国の申請額が上回っています。今後も、協調補助により計画的な導入が図られるよう国との連携を密にします。	国の予算配分において調整率が変動することにより、当初予定していた台数が導入できないことがあるため、国及びバス事業者との情報を密にして効率的な導入を図る必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	総合交通計画策定事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民等	事業期間	2008 年 ~ 2009 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 ○企業 NPO その他】【協働: 市民、交通事業者、関係団体等】		
目的・目標		事業の概要	
長期的な見通しに立った交通需要に基づいて、道路、鉄道、バス、駐車場や新たな交通システムの導入など、総合的な交通ネットワークの形成が図られ、交通利便性・快適性及び安全性が高まっています。		交通需要への対応と交通利便性の向上を図るため、市内・外に及ぶ鉄道網、バス網、道路網など、長期的な交通施策の基本的な計画を策定します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	計画策定進捗率			単位	%
	説明・算定式	H20:基本方針策定60% *、 H21:交通計画策定40%				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	—	60	100		
	実績	60	100			
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	道路渋滞の発生や路線バスの定時性、速達性の低下などの交通問題の解消に向け、上位計画である都市マスタープランの実現に向け、市が策定する必要がある計画です。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	平塚市総合計画、第2次都市マスタープラン及びかながわ交通計画に即し、20年後の交通需用を展望した総合的な交通マスタープランを策定することにより、上位計画の具現化につながる有効な事業です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	将来の交通需用への対応と交通利便性の向上を図るため、道路網、鉄道網、バス網、駐車場や新たな交通システムの導入など総合的な交通計画の策定を行う事業であるため妥当性があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	計画策定にあたり、専門的な知識を有するコンサル会社へ委託し、効率的な事業実施を行いました。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		—	基本方針の策定	総合交通計画の策定
財源内訳	国庫支出金	0	5,000	5,500
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	5,500	6,260
事業費 (A)		0	10,500	11,760
執行率 (%)		0.00	77.78	102.26
内訳	職員 (人)	0.00	0.95	1.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	7,972	8,356
フルコスト (A+B)		0	18,472	20,116

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	—	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	—	総合交通計画策定のために現状における課題の整理やその課題の解決に向けた基本的な考え方を整理しました。	平成20年度に引き続き総合交通計画策定のため基本理念や将来交通体系などの整理を行い、学識経験者、関係団体、公募市民などで構成した検討会議や庁内策定委員会等、さらにはパブリックコメントなどを経て、平塚市総合交通計画(案)を作成しました。
検証結果		—	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		総合交通計画の策定にあたり、市民の意見や提案を踏まえ、交通事業者や交通管理者など様々な関係者を交え、検討を行う必要がある。	段階的な整備プログラムを策定し、実施に向けた具体的な検討が必要となります。	総合交通計画に位置付けた交通戦略プランの実現や将来交通体系の構築に向けた取り組み方策を関係機関と連携し実施することが必要です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	東雲橋・玉川橋架替事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	~ 2009 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
老朽化した橋の架け替えにより、良好な交通環境の提供や景観との調和が図られています。		橋の老朽化と慢性的な交通渋滞を解消するため、東雲橋と玉川橋を同時に架け替えます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位
	説明・算定式				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標				
	実績				
活動指標②	指標名				単位
	説明・算定式				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標				
	実績				
成果指標①	指標名	橋りょう整備進捗率			単位 %
	説明・算定式	累計橋りょう整備／橋りょう整備合計 *H19年度: 桁製作・架設35%、H20年度: 橋面仕上げ39%、H21年度: 取付け道路整備17%			
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標	44	83	100	
	実績	44	83	100	
成果指標②	指標名				単位
	説明・算定式				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標				
	実績				

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	橋の老朽化と慢性的な交通渋滞が解消でき、必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	東雲橋、玉川橋との同時完成により、交通の結接点における円滑な進行が確保でき、有効性が高いと考えます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	公共交通の利便性から妥当性は高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	東雲橋、玉川橋との架け替え工事を同時期に行うことにより、工期等の短縮が図れるなど効率性が高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		桁製作・架設工	橋面仕上げ	取付道路などの整備
財源内訳	国庫支出金	209,975	26,115	16,685
	県支出金	2,503	2,503	1,043
	起債	115,600	11,585	7,100
	その他 特財	0	5,689	93,812
	一般財源	366,469	87,226	8,844
事業費 (A)		694,547	133,118	127,484
執行率 (%)		105.58	41.63	214.30
内訳	職員 (人)	1.45	1.45	0.50
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		12,167	12,167	4,178
フルコスト (A+B)		706,714	145,285	131,662

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	東雲橋は桁製作・架設工、高欄工を行った。玉川橋は、神奈川県が実施する桁製作・架設工にかかる費用の本市分を負担した。	平成21年3月末に東雲橋、玉川橋の2橋が同時開通しました。	平成21年3月末に東雲橋、玉川橋の2橋が同時開通しました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	A: 成果があがった 平成23年度への展開
今後に向けた課題		東雲橋と玉川橋の架替事業は一体的な工事であり、玉川橋は県が施行、東雲橋は市施行のため、県・市協調して事業に取り組む。	2橋の完成に伴い、今後は適正な維持管理を行うこととなります。	2橋の完成に伴い、今後は適正な維持管理を行うこととなります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	幹線道路整備事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
幹線道路を整備することにより、交通混雑の緩和が図られるとともに、地域の住環境も向上しています。		住環境の向上と交通の円滑化のため、幹線道路（真土金目線、金目神戸線など）を整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	3か年の用地買収進捗率			単位	%
	説明・算定式	H19年度:用地買収等32%、H20年度:用地買収等24%、H21年度:用地買収等44%				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	32	56	100		
	実績	32	90	100		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	周辺地域の幹線道路を相互に連絡することになり、地域の骨格を形成する幹線道路の整備の必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	幹線道路を整備することで交通混雑の緩和が図られ、有効性が高いと考えます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	住環境の向上と交通の円滑化のため妥当性が高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	幹線道路と幹線道路とが連結されることにより、交通体系の効率性が高まります。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		用地買収、測量設計	用地買収、測量設計	用地買収、測量設計
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	55,158	47,802	19,711
事業費 (A)		55,158	47,802	19,711
執行率 (%)		80.60	62.45	31.08
内訳	職員 (人)	0.85	0.45	0.75
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		7,133	3,776	6,267
フルコスト (A+B)		62,291	51,578	25,978

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	金目・神戸線の用地買収、物件移転補償契約を行った。真土・金目線の拡幅計画について、地元説明会を行った。これらの取組により、幹線道路整備への事業進捗を図った。	真土金目線の測量調査設計や金目神戸線の用地買収、物件移転補償契約を行いました。これらの取組により、幹線道路整備への事業進捗を図りました。	真土金目線の用地買収や整備工事を行いました。これらの取組により、幹線道路整備への事業進捗を図りました。
検証結果		A : 成果があがった 平成21年度への展開	A : 成果があがった 平成22年度への展開	A : 成果があがった 平成23年度への展開
今後に向けた課題		幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。	幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。	幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	街路整備事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
街路(都市計画道路)を整備することにより、交通混雑の緩和が図られるとともに、地域の住環境も向上しています。		住環境の向上と交通の円滑化のため、街路(平塚山下線、北金目真田線、五領ヶ台南線など)を整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	3か年の用地買収進捗率			単位	%
	説明・算定式	H19年度:用地買収60%、H20年度:用地買収・街路整備6%、H21年度:用地買収・街路整備34%				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	60	66	100		
	実績	60	60	60		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	周辺地域の幹線道路を相互に連絡し、かつ、地域の骨格を形成する都市計画道路の整備の必要性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	都市計画道路を整備することで、周辺地域の交通混雑の緩和が図られ、有効性が高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	住環境の向上と交通の円滑化のため妥当性が高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	幹線道路と幹線道路とが連結されることにより、交通体系の効率性が高まります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		仮設道路賃借料	用地買収・街路整備	用地買収・街路整備
財源内訳	国庫支出金	0	8,936	7,150
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	2,783
	一般財源	1,177	12,742	53,975
事業費 (A)		1,177	21,678	63,908
執行率 (%)		19.05	56.25	25.74
内訳	職員 (人)	1.40	0.80	0.85
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		11,748	6,713	7,103
フルコスト (A+B)		12,925	28,391	71,011

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	③:遅れている 地権者との用地買収交渉に不測の期間を要したため。
	主な取組と成果	平塚山下線の測量調査委託(繰越)や、五領ヶ台南線の用地買収交渉を行った。これらの活動を通じて、事業進捗を図った。	平塚山下線の整備や、五領ヶ台南線の用地買収に向けて準備を進めました。	平塚山下線の整備や北金目真田線、東海大学前駅真田線、五領ヶ台南線の用地買収に向けて準備を進めました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	C:十分に成果をあげることができなかった 平成23年度への展開
今後に向けた課題		都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めたい。	都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。	都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。